

《技術報告》

SUNY4001 (アデノシン) 負荷 ^{201}Tl 心筋シンチグラフィの 虚血検出に関する検討

労作性狭心症を対象とした第 II 相試験

坂田 泰史*1,† 西村 恒彦*2 山崎 純一*3 西村 重敬*4
梶谷 定志*5 児玉 和久*6 加藤 和三*7,‡

要旨 RCA または LAD に 1 枝病変を有する労作性狭心症 44 例を対象として SUNY4001 (アデノシン) 負荷 ^{201}Tl 心筋シンチグラフィの虚血検出能および安全性を検討した。SUNY4001 負荷は 120 または 140 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{min}$ 6 分間持続静脈内投与とし、投与開始 3 分後に ^{201}Tl を急速静注した後、初期および晩期像を撮像した。冠動脈造影所見 (AHA 基準 90% 狭窄以上) を基準とした冠動脈病変検出率 (虚血検出率) は 120 および 140 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{min}$ で各々 94.7% (18/19) および 84.2% (16/19) であった (NS)。負荷に伴う副作用が各々 73.9% (17/23) および 81.0% (17/21) に発現したが (NS)、程度はすべて軽度～中等度であり、投与中または終了後速やかに消失した。主な症状は胸痛、胸部不快感および熱感であった。また、投与中に軽度の血圧低下および心拍数増加を認め、投与終了後速やかに回復したが、140 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{min}$ の方が血圧に及ぼす影響が大きかった。

以上より、至適負荷用量は 120 $\mu\text{g}/\text{kg}/\text{min}$ と推察された。

(核医学 41: 123-132, 2004)